岡山畜産便り 1964.01

酪連だより

県酪連の歩み
生乳学校給食予算について

昭和38年12月28日付け全国酪農協会よりの、本会宛の緊急連絡によると生乳学校給食予算は次の様な動きをしている由です。

昭和39年度の予算編成では我々の最も強く運動して来ました生乳学校給食の補助（生産者団体要望60万石の６円補助、自民党55万石の５円補助、農林省40万石の４円80銭補助）について大蔵省は第１次査定で40万石、３円70銭（現行）を固執し、その後数日我々は連日連夜猛運動を展開いたし、その間各地区よりの電報陳情、さらに特に田中大蔵大臣の地元（新潟刈羽酪農協西沢組合長）赤城農相の地元（茨城県酪連国府田会長）の活溌な運動により漸次好転いたして参りましたが、満足すべきものでなく、27日夜半、大蔵、農林大臣間で畜産振興事業団交付金20億の内､調整工場設置費と豚関係計３億円を除き、残17億を生乳学校給食補助と決定した気配で、これによると40万石17億円となると結局４円25銭（１合当補助）と推定されるわけで、ともあれ両大臣間では17億40万石と決定した模様で細部は事務当局に委ねられる訳ですが、その後自民党政調部会は強く不満を示しており、さらに生産者団体として今尚運動を展開いたしておりますが恐らく年内に決定の気配であります。

本県の酪農も昭和26年には乳牛頭数3,000頭程度でありましたが､今日は３万2,000頭に達しました。生産乳量は昭和37年には年間生産量７万2,000ｔ余に達し、全国でも８位というめざましい伸展をいたしました。この期に当って県酪連の歩みと事業を皆様に御紹介して、御理解をいただき、更に御協力をお願いします。

本会の前身である県酪農協会は、昭和24年４月１日発足しましたが、大きく進展した本県酪農の中心団体としては、より強力な規模の団体が必要になって参りまして、昭和34年２月28日酪農協会を、発展的に解消して、県酪農連合会として発足し、今日にいたっております。本会の創立の主旨は、酪農発展の基本となる生乳の需給安定であります。即ち生乳の一元集荷多元販売を行うことを目途として、昭和35年１月より、生乳共販に踏切り昭和38年には県内生産乳量の83％６万ｔを取扱っており、乳価安定のために総力をあげております。また昭和36年６月に和気町に、昭和37年12月には北房町に、それぞれミルク・クーラーステーションを建設して、名実共に生乳共販の実を一歩踏み出してります。

購買事業では、政府払下飼料を中心に、安い飼料の大量確保に努めてきまして、現在かなりの成果をあげております。

登録事業については、乳牛頭数の増加にともない、逐年登録件数も増加して参りまして、登録を通して乳牛の改良を計ることに努力しております。

日ごとに変りつつある酪農事情に対処して、県内１万2,000戸酪農家の利益を守るために、県酪連は先ず生産から販売にかけての一連した指導事業の、強化に努めねばなりません。

そこで県酪連が、今年計画している事業の一端を、紹介したいと存じます。

１、乳牛の流通に関する事業

初生牡犢の共同販売計画について

県内で年間に生産される、初生牡犢は9,000頭と推定され、従来これの販売は、地方によってまちまちな価格で取引されておりますが、本会は協同組合の組織を通じて、高く有利に共同販売することを、計画しております。今年は早急に実施に移す予定でありますが、集荷の方法や取引契約については、会員組合に御協力願って、酪農家の皆様の便を考えつつ、最良の方法で進めて行きたいと考えておりますので、特段の御協力を御願いいたします。

廃用牛の販売については、ホルスタイン種の肉は短期間の肥育によって、和牛の肉質と大差がないといわれている折から、これらの指導と併せて、有利な販売体制を築きあげたいと考えております。

岡山畜産便り 1964.01

２、乳牛登録について

酪農の景気が下向きになると登録件数が減少してきます。例えば折角予備登録、本登録を受検する資格があっても、時期を失して、遂には子、孫までも無登録になってしまうものが可成りあります。

ところが現在の登録制度は、ホルスタイン種系は、本登録２代目の子から血統登録に、ジャージー種系では基礎登録してから３代目で血統登録に繰入れられるようになっており、実際に基礎登録から予備登録、本登録を経て純粋になったものは、非常に価値がある訳です。本会で調査したところでは、このような資格があっても、体格審査を受験していないものが、ホルスタイン種系だけで 3,000 頭現存しております。

今年は酪農の景気も上向きになりつつありますので、この機に本会では、無登録牛を一掃いたしたいと考えています。今後の乳牛流通施策においても、登録証明書を更に価値づけて、一層乳牛改良事業に資すため、３月末までに体格審査を実施する計画を樹てております。又無登録牛をなくするため全頭登録するよう計画も持っておりますので、酪農家を始め関係の皆様の御協力をお願い申し上げます。